

## 新年例会・祝賀会

日時 ■ 1月15日(火)  
場所 ■ リーガロイヤルホテル小倉

1月15日(火)リーガロイヤルホテル小倉にて、(社)北九州青年会議所2008年度新年例会及び新年祝賀会が行われました。新年例会では、飯野理事長の挨拶と、「愛」～愛が溢れる社会の現実に向けて～というテーマに北九州JCメンバー一同、新たな思いで「明るい豊かな社会の実現」に向け歩き始めました。新年祝賀会では各方面から250名以上の方にお越しいただき、メンバーを含め約470名で盛大に行われました例会委員会制作のオープニングビデオで開幕。理事長所信ではテーマの「愛」、4つの運動方針が発表され、「愛があるからこそ、私たちは力強く生きることができる。愛があるからこそ、まちを変えることができる。愛が溢れる社会こそ真に豊かな社会である。」という言葉は会場内の方々の胸に刻み込まれ、(社)北九州青年会議所の進むべき方向をしっかりと伝えられました。また、新役員紹介、北九州ビジョン創造委員会は、2011年度第60回全国会員大会主管LOM招致活動・拡大委員会は会員拡大65名と目標を掲げ力強くPRが行われました。最後に恒例の「若い我等」で会場が一つになり、2008年度の新年限会・祝賀会は閉会しました。皆様のご協力、有難うございました。

例会委員会 藤永 高治



## (社)日本青年会議所2008年度 京都会議

日時 ■ 1月17日(木)～20日(日)  
場所 ■ 国立京都国際会館他

1月17日(木)から20日(日)の日程で、(社)日本青年会議所2008年度京都会議が開催され、約100名の北九州JCメンバーが参加いたしました。会議場内では、事業の方向性の確認やメンバー自身のスキルアップを目的としたフォーラムや会議・セミナー等に積極的に参加するメンバーの姿を随所で見ることができました。また、(社)日本青年会議所人間力大賞推進委員会委員長として出向の広本誠治君をはじめ、様々な委員会・グループで活躍する多くの出向メンバーへの応援など、北九州JCメンバーの志の高さを感じました。そして、最終日の新年式典では2008年度(社)日本青年会議所会頭小田與之彦君の所信表明『高い志と使命感によるローカルコミュニティー復活!「気高き日本」の創造!』が行われ、志新たに2008年度の力強い第一歩を踏み出し、愛が溢れる社会の実現に向けて、(社)北九州青年会議所の結束力と友情を更に深めた会議となりました。

北九州ビジョン戦略委員会 副委員長 木村 哲哉



## 「九州厚生年金会館の機能存続を求める市民運動実行委員会」活動報告

### 陳情訪問

日時 ■ 1月15日(火) 場所 ■ 厚生労働省・健康保健福祉施設整備機構

1月15日(火)、地元衆議院議員西川厚生労働副大臣のご尽力により、厚生労働省と健康保険福祉施設整備機構(RFIO)に、重湖北九州商工会議所会頭(実行委員長)と中柴直前理事長(実行委員会事務局長)、中島議長率いる北九州市市議会(9名)で市民運動の報告と機能存続を求めた陳情に伺いました。舛添厚生労働大臣は「市民の声はしっかりと受け止めました、現在の枠組みの中で存続ができるように知恵を絞らねば」と暖かいお言葉を頂戴しました。

### 『シンポジウム・チャリティーコンサート』

日時 ■ 2月11日(祝・月) 場所 ■ 九州厚生年金会館ウェルシティ小倉グランドホール

2月11日(祝・月)実行委員会主催の『シンポジウム・チャリティーコンサート』を九州厚生年金会館グランドホールにて行いました。当日、署名人数31万人を超え、音楽家や音楽団体からご協力頂いたコンサートでは、客席が満席になるほど市民が集い、あらためて会館の存在意義が証明されたものとなりました。

### 北九州市の存続に向けた対応方針発表

日時 ■ 2月13日(水)

2月13日(水)北九州市の存続に向けた対応方針が発表され、会館を購入する方向へ協議していくことになりました。同会館は当初、今年9月末までに閉館する予定でしたが、これは実行委員会の運動そのものを北九州市が全面的に受け入れた結果となったものです。

副理事長 松永 浩



## (社)貝塚青年会議所友好会議

日時 ■ 1月20日(日)  
場所 ■ ばるるプラザ京都



1月20日(日)京都会議終了後、ばるるプラザ京都にて(社)北九州青年会議所と(社)貝塚青年会議所とのシスター会議がおこなわれメンバーとして(社)大阪青年会議所が参加していただきました。2008年度のメンバー紹介に始まり台北市国際青年商會との交流スケジュール確認がおこなわれました。今後公益社団法人としてIFP事業に関する公益性の問題点や今後の取組みに熱い議論がかわされました。また(社)北九州青年会議所と(社)貝塚青年会議所の交流についてもお互いが行き来して友情をより深いものにしていくという事でした。京都会議でお疲れの所出席して頂き、大変ありがとうございました。

台北交流委員会 幹事 鮫島 康弘

